

芸劇+トーク 朗読「東京」(第3回)

1月7日(水)~9日(金) 19:30開演 シアターイースト

詳細はP11へ

東京を読み、東京を語り、東京の魅力を再発見

東京を描いた小説や戯曲を俳優が朗読し、評論家の川本三郎を聞き手語るリーディングシリーズ。今回は舞台や映画で活躍する若手が坂口と谷崎の短編、落語の『品川心中』に挑戦。街の豊かな魅力、知られざる顔を再発見する機会でもあり、興味をそえられる。期待して劇場へ!

1月7日(水)『白痴』坂口安吾 作



川口 寛

藤井美菜

1月8日(木)『少年』谷崎潤一郎 作



百瀬 朔

名児耶ゆり

1月9日(金)『品川心中』(古典落語より)



橋本 淳

宮菜穂子



演出:山本卓卓(範由遊泳)

企画監修・トーク聞き手:川本三郎

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)/豊島区  
制作:る・ひまわり  
助成:平成26年度 文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

芸劇+トーク 異世代リーディング「自作自演」(第12回)

2月2日(月) 19:00開演 シアターウエスト

詳細はP13へ



飴屋法水

江本純子

トーク聞き手:徳永京子(演劇ジャーナリスト)

異世代の作家が自作を読み、語り合う。その声に耳を澄まして

世代の異なる2人の作家が自作を読み、語り合う。芸劇休館中の2011年にスタートした人気シリーズに、1961年生まれの飴屋法水と1978年生まれの江本純子が登場。

小説や戯曲、エッセイを、手掛けた作家自ら声に出して読むという、特別な気持ちで込められた朗読はファン必聴。それを生み出した作家ならではのあふれる思いに耳を傾ければ、見知られた作品にも違った味わいを感じ、新しい風景が見えてくるはず。

美術家でもある飴屋と独自の演劇スタイルを確立した毛皮族主宰の江本。異なるボキャブラリーを持つ異世代だが、飴屋が結成した東京グランギニョルの代表作『ライチ光クラブ』を江本が舞台化したことも。

語り合うことで2人のどんな共通項が浮かび上がるだろう。ここでしか聞くことができない、リアルでディープな話にひたれる至福の時間。どの作品がピックアップされるのか、それも楽しみにしながら出かけよう。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)

2015 COMING UP NEXT 4-6

2015.4-6 演劇・ダンス ラインナップ

芸劇eyes

劇団チョコレートケーキ「追憶のアリラン」

脚本:古川健 演出:日澤雄介

4月9日(木)~19日(日)/シアターイースト

一般発売:2月上旬

芸劇dance

ローザス「ドラミング」

振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル

4月16日(木)~18日(土)/プレイハウス

一般発売:2月14日(土)

芸劇dance

Co.山田うん「春の祭典」【七つの大罪】

振付・演出:山田うん 出演:Co.山田うん

4月24日(金)~26日(日)/シアターイースト

一般発売:2月21日(土)

※2014年12月25日時点の情報です。

変更になる場合がございます。

最新情報はお問合せ下さい。

TACT/FESTIVAL 2015

クレール・リュファン「眠れない... -L'Insomnante」

出演:クレール・リュファン/カミーユ・ボワテル

5月3日(日)~6日(水・休)/シアターイースト

一般発売:3月7日(土)

J・モンタルヴォ「アサニシマサ、アサニシマサ~魔法の呪文」

振付・演出:ジョゼ・モンタルヴォ

5月3日(日)~6日(水・休)/シアターウエスト

一般発売:3月7日(土)

芸劇eyes

ブス会\*「女のみち2012 再演」(仮)

脚本・演出:ベヤンヌマキ

5月下旬/シアターイースト

一般発売:4月上旬

TSミュージカルファンデーション「Garantido ガランチード」

演出・振付:謝珠栄

5月21日(木)~26日(火)/プレイハウス

一般発売:2月21日(土)

eyes plus

城山羊の会「仲直りするために果物を」

作・演出:山内ケンジ

5月下旬~6月上旬/シアターウエスト

一般発売:4月下旬

芸劇eyes

木ノ下歌舞伎「三人吉三」

監修・補綴:木ノ下裕一 演出:杉原邦生

6月中旬/シアターウエスト

一般発売:4月上旬

グループる・ぱる「Yへ~茨木のり子の日記~」(仮)

作:長田育恵 演出:マキノノゾミ

6月12日(金)~21日(日)/シアターイースト

一般発売:4月下旬

「cocoon」

原作:今目マチ子 作・演出:藤田貴大

6月下旬~7月中旬/シアターイースト

一般発売:4月下旬

eyes plus モダンスイマーズ「悲しみよ、消えないでくれ」

1月23日(金)~2月1日(日) シアターイースト

詳細はP12へ



作・演出: 蓬萊竜太  
 出演: 古山憲太郎、津村知与支、小椋 毅、  
 西條義将、生越千晴/  
 今藤洋子、伊東沙保/でんでん

新生・モダンスイマーズによる、悲しみという免罪符の物語。

芸劇eyesがスタートした2009年に『凡骨タウン』、2011年のリニューアル記念「東京福袋」には『不毛ドライブ』と、東京芸術劇場の節目に参加してきたモダンスイマーズが、満を持してeyes plusに登場する。

モダンスイマーズの魅力と言えば、作・演出を手がける蓬萊竜太の、ブレることなく次々と投げ込まれていた重く速いストレートが、いつの間にか変化球になっていたという、見事なドラマづくりにある。1999年結成なので、15年の歴史の中ではその時々の変化もあるが、真正面から丁寧に人間の心の動きを追いつつ、人間の思いだけではどうにもならない大きなものを扱う物語は、少し大げさな言葉を使えば、常に運命や宿命というものを描いていたと言えるだろう。

井上ひさしの遺志を継いで新作を書き下ろした『木の上の兵隊』(2013年)をはじめ、翻訳

劇、現代小説、古典などさまざまなプロデュース公演の脚本、演出で蓬萊竜太が引く手あまたなのは、上記のように細やかな心理描写と大きな運命を同時に描けることを考えれば、何の不思議もない。

『悲しみよ、消えないでくれ』は、1年2ヵ月ぶりの劇団公演。蓬萊竜太、主宰で俳優の西條義将、俳優の古山憲太郎、津村知与支、小椋毅という男所帯に、生越千晴という22歳の新人女優が加わった新生・モダンスイマーズとしては初めての公演となる。客演には、さまざまな舞台や映像で活躍する今藤洋子、伊東沙保、そしてでんでんという、個性派にして実力派が顔を揃えた。妻を亡くして生きる意欲を失った男と、妻の家族や近所の住民など周囲の人々との関係から、弱さやズルさ、その先にある人間の本当がにじんできると、見応えのある作品になりそうだ。

文: 徳永京子

主催: モダンスイマーズ 提携: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

eyes plus アマヤドリ「悪い冗談」

3月20日(金)~29日(日) シアターイースト

詳細はP16へ



作・演出: 広田淳一  
 出演: 笠井里美/松下 仁/渡邊圭介/小角まや/  
 榊津津美/糸山和則/沼田星麻/  
 中野智恵梨/中村早香 ほか

海外キャストを招いて、観光立国になったニッポンを描く。

1年に3回公演は当たり前、その間に自分達のスタジオを構えたり、1ヵ月のロングラン公演をしたり、古典にも取り組んだり、作・演出・主宰の広田淳一が地方や海外で仕事をしたりと、常に怒濤の勢いで活動しているアマヤドリ。その濃密さは作品の内容にも反映されていて、特にオリジナル作品は、SF的な設定の緻密なせりふ、せりふに頼らない人間関係の機微、現代社会につながる大きなテーマ、出演者全員によるスピーディなダンスという複数の要素を、ひとつの作品の中で共存させている。

東京芸術劇場には2011年、現在の名前になる前の「ひょっとこ乱舞」時代(2001~12年)に、『ロクな死に方』で芸劇eyesに参加。同作は、劇作家協会新人戯曲賞優秀賞を受賞した。

『悪い冗談』は、2014年度を通じて取り組んできたテーマである「悪と自由」の、第3作にして完結編。4月の『ぬれぎぬ』、9月の『非常の階

段』を通して広田がこだわってきたのは、人間の心にある悪、社会に発生する悪が、なぜ生まれてどう増殖していくのか。また、人間の尊厳に自由があるなら、悪と自由はどこまで相容れるか、という問題。この壮大なテーマを、いよいよ完結させるという。

具体的には、観光立国となるべく国全体がテーマパークと化してしまった国の日常という形で、日本の今後を大胆に夢想する。カジノ法案などが議論され、オリンピックを意識した街づくりが話題に登る今、非常にタイムリーな内容と言えるだろう。出演はアマヤドリのメンバーに加え、広田がアジア舞台芸術祭などで知り合ったアジアの俳優達を招く。国際共同作業の面も持つ現場の刺激的な空気が、きっと観客にもピリピリと届くだろう。

文: 徳永京子

主催: 合同会社プランブル/アマヤドリ 提携: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)